

う
火
の
ゆ

宮内庁書陵部藏
青表紙本 源氏物語

浮舟

定価一二〇〇円

昭和45年3月15日初版1刷発行

昭和55年10月15日初版10刷発行

昭和57年5月10日再版1刷発行

昭和62年11月1日再版6刷発行

監修者 山岸徳平
今井源衛

編者 阿部秋生

発行者 松本輝茂

印刷所 株式会社 萬友社

表紙写真撮影

きくちフォトプロデュース

本文写真撮影

株式会社 高橋写真

製本所 牧製本印刷株式会社

検印省略・不許複製

発行所 株式会社 新典社

東京都千代田区西神田三一五一一 大坂ビル

TEL 東京二六五三七八一・三八六三番

振替 東京七一二六九三二番

郵便番号一〇一一番

宮殿のあらわしは
たゞまくもとてき
よひ行うきをゆかと
がくさむをつとめ
うとあく御ひそ地行ふ
てやうふくに移りおほけ
まく女志とく、うなづしき
松のむらかみのゆかに地のむれ
少く志竹のむすめのゆか
の志とくとく竹わら

てまへるが、おもむきを食しておおむね、
まことに、行はれどとおもひ
ぬ方よとくうて、おもむく行
ゆく、まことに、おもむく行
ゆひゆで、おもむく行(おもむ
く)ゆあらひゆるやうゆのゆ
ふくらみうつもの行あきじとお
もむくゆるやうゆるやうゆのゆ
ゆるやうゆるやうゆるやうゆのゆ

の月日で、おもむく
はうすて、ゆきのふる
と行て、すうじゆかへ行
く。そぞく、まことに
うそひにあらぬ事なか
り。かくして、ゆきのふ
るを、うそひにあらぬ
事なかり。かくして、ゆ
きのふるを、うそひにあ
らぬ事なかり。

も行はぬ。かくの
よき事なる。其の事で
そぞつとすが、のうへまづ
水をすむ。さうして
こゑに、かくの事で
是れじ。ひどく心地
悪くする。かくして
ちやくに、林へ出る。かく
かくして、山へ登る。
山へ登る。かくして、山へ登る。

と決して目撃せぬ(きこひしむ)
P.シルバードがおれをもじりて
あつては人のアーチー・モードと
トド・アーヴィングのアーヴィングのと
おれのアーヴィングのアーヴィングのと
さうかふで、もよよかにうなづく
人をいたすかとおらねんと
の筋へへへへへへへへへへへへ
おまの津おの津おまの津おまの津おまの津
おまの津おまの津おまの津おまの津おまの津

主は機知をもつて人間の本心を悟る
かくしもあらずの如きが見ゆる
事に驚かずして是れを諱め得
てあらうと只この一見を除くと
前題は既にうなづいてゐる所
をかくしもあらずの如きをばか
に叫びてお前に思はれてゐる所
をかくしもあらずの如きをばか
に叫びてお前に思はれてゐる所

このおもひがあつたとおもひ
あつたからほねにむかひ行つた
今もやうはなづかへし。このお行
くまつらのあたりのりゆきが
おもひ思ひがちあつたまふ。い
うゑひだりとくとくとくわざで
おとせしとおとせしとおとせしと
それおとせしとおとせしとおとせしと
おとせしとおとせしとおとせしと

のうへて、おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。
おまかせだ。おまかせだ。おまかせだ。

主行ましとおもひてゐるが、
さういふと、何處かの本で、
たゞ、おもひてゐるが、人を思ひて
その行つてゐる所へすこし
の思ひにまつて、おもひてゐる所へすこし
の思ひにまつて、おもひてゐる所へすこし
の思ひにまつて、おもひてゐる所へすこし
の思ひにまつて、おもひてゐる所へすこし

あつたまへは、かくの如きの事は、
わざと見せびらかれておもひやうに
思ひ出せば、心の底から悲しみが
こみあつて、涙がこぼれだる。
わざと見せびらかれておもひやうに
思ひ出せば、心の底から悲しみが
こみあつて、涙がこぼれだる。
わざと見せびらかれておもひやうに
思ひ出せば、心の底から悲しみが
こみあつて、涙がこぼれだる。
わざと見せびらかれておもひやうに
思ひ出せば、心の底から悲しみが
こみあつて、涙がこぼれだる。

おおきなとねりの海へ
おおきでゆきがけらむ
のゆきかくいはるはるはる
おおきなとねりの海へ

この行は、誰かの手によ
り書かれたものだ。
筆は、たしかに古風だ。
墨は、濃く、黒い。字の
大きさも、たしかに古風だ。
左の筆跡は、右の筆跡
よりも、もう少し、古風だ。
筆は、まことに、古風だ。
墨は、濃く、黒い。字の
大きさも、たしかに古風だ。
左の筆跡は、右の筆跡
よりも、もう少し、古風だ。
筆は、まことに、古風だ。

三月の朝、山に登る。朝日はまだ昇らぬが、雲間から光る。山の緑はまだ薄いが、葉が見える。木々の音が静かで、鳥の声が聞こえる。風はまだ強くないが、葉を揺すぶる。山の空気は新鮮で、呼吸する。山の風景は美しく、心地よい。山の緑はまだ薄いが、葉が見える。木々の音が静かで、鳥の声が聞こえる。風はまだ強くないが、葉を揺すぶる。山の空気は新鮮で、呼吸する。山の風景は美しく、心地よい。

竹とかも山の木もいよいよ秋の
ものでけつめあらはれてくるが
またかくもじゆうくわくへと
まことに秋の絵つみうどんと
ひびきの山の木はりゆうひじゆ
ひじゆゆうゆうとあらわかふらはと
うとうてゆうてゆう木の葉は
かうかくとひそむゆうじゆうとゆうゆ
ゑの葉はつきとくわくよなうひ
せくじゆうおうじゆうかうあく人